



特集

未来へ羽ばたく交流を

サンカルロス市(米国カリフォルニア州)と姉妹都市提携調印



1

1 サンカルロス市庁舎で姉妹都市提携調印式を行いました。(前列左から)永尾副議長、松本市長、グロコット・サンカルロス市長、アーベイン姉妹都市協会会長

2 姉妹都市提携を記念してサクラの植樹を行いました。

3 サンカルロス駅

4 航空博物館



サンカルロス市は、日本から訪問するのに変更便利なアメリカ西海岸に位置し、サンフランシスコ国際空港から車で約20分です。温暖な気候で治安もよく、ホームステイや語学交流、市民交流など、継続的に交流を行ううえで、とてもよい場所にあります。

サンカルロス市は
こんな街

交流を推進していきます。

サンカルロス市公式訪問団が、7月19日〜26日まで、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンカルロス市で姉妹都市の提携を行うため訪米しました。

現地時間7月20日、サンカルロス市庁舎を訪問し、サンカルロス市側はグロコット市長とアーベイン姉妹都市協会会長が、大村市側は松本市長と永尾副議長が、両市の姉妹都市提携の調印を行いました。調印式には、在サンフランシスコ日本総領事館の猪俣総領事や大村市からの一般訪問団も同席しました。

市制施行70周年を迎えた飛躍の年に、英語圏の都市と姉妹都市の提携ができたことは、国際交流の推進を目指す本市にとって、大変すばらしいことであり、今後将来を見据えた実のある交流を推進していきます。

サンカルロス市と
姉妹都市を提携



姉妹都市協会元会長
ジョン・ホフマンさん

message



私は、妻とともに本年4月に大村を訪問しました。大村の人々は、みんな礼儀正しく、優しく、親切だったことを鮮明に記憶しています。8月1日から大村の学生がサンカルロスでホームステイし、来年はサンカルロスの学生が大村でホームステイする予定です。これからもこうした人々の交流を推進していきたいと思っています。そうすることで、日本とアメリカ両国間の関係もより良いものになると思います。



姉妹都市協会会長
リオノア・アーベインさん

message



外国の都市と交流が進むに連れて重要なことがわかってきました。距離が離れていても、どこの人々もみな同じで仲良くやっていると。私たちは、サンカルロス市と同じような理想と目標を持つ人々が住む都市を見つけることができました。植樹式で植えられたサクラが、土の中に力強く根をはっていきように、両市と日米両国の文化の結びつきが強くなっていくことを確信しています。

姉妹都市サンカルロス市より



私は今、米国カリフォルニア州サンカルロス市にいます。大村市の新たな姉妹都市です。

大村からホームステイする中高生2人と一緒に、私はこの地に到着しました。2人は現地の人と交流し英語を勉強するとともに、アメリカの文化を学びます。私の母国で有意義な生活を過ごしてほしいものです。来年はもっと多くの学生に来てもらいたいと思っています。

私自身、サンカルロスに来たのは3回目ですが、とても美しいまちです。今朝の温度は12度。外には少し霧がかかっていましたが、しばらくすると太陽の光が霧を消し去り、過ごしやすい天気になりました。

私がお世話になっているホストファミリーの家は高い丘にあります。いったん出かけると、帰りは急な坂なのでよい運動になります。近所を散歩した私の感想は、どの家も大きめで手入れが行き届いており、道路沿いの木々や花にマッチしていてよいデザインです。また、道路の幅はかなり広いです。住宅街にもかかわらず家の前の道路は、大村の国道34号と同じくらいの幅があります。ちなみに近くにある高速道路(アメリカでは通行無料なので「フリーウェイ」と呼んでいます。)は、だいたい一方が6レーン、全体で12レーンあります。

サンカルロス市の市訓は、「The City of Good Living」(豊かな生活を実現する都市)です。私もとても住みやすそうなまちだと感じています。私はこれから、大村の学生とともに、約2週間、ここサンカルロスに滞在します。

ダークセン カイ ペンス
8月2日 Dirksen Kai Pence

私は、アメリカの文化にたくさん触れることと、英会話を上達させることを目標としています。渡米中は、多くのことを体験して学び、積極的に現地の人と英語で話し、言葉がわからなくても一生懸命に伝えようとがんばります。また、ホストファミリーに、日本の文化や習慣、大村の生活などを伝えたいと思います。



本多 花帆さん

積極的に英語で話したい!



栄喜 亮冨さん

より広い世界を見てみたい!

私が希望した理由は、より広い世界を見てみたいからです。私は、大村市の代表としてアメリカへ行きますが、相手にとっては日本の代表と言っても過言ではありません。期間中は、日本人として恥ずかしくない行動を心がけたいと思っています。これまでの経験とコミュニケーション能力を生かしてがんばってきます。



サンカルロスの青い空

羽田空港を7月20日の未明に飛び立ち、約9時間35分のフライトでサンフランシスコ空港に着陸すると、日付変更線を越えたため7月19日の夕刻に時間が戻っていました。夕刻といつても、まだ明るく、風は秋風のように爽やかで、カリフォルニアの太陽が時差ボケも吹き飛ばしてくれました。

サンフランシスコ空港から車で約20分でサンカルロス市に着きます。現地時間の7月20日、午後2時、大村市からの一般訪問団12人とサンカルロス市民立ち会いのもと、サンカルロス市議会場で姉妹都市提携合意書に、サンカルロス市長ほか、私と永尾市議会副議長もサインをしました。これで本市の国外の友好・姉妹都市は中国上海市閔行区とポルトガル共和国シントラ市に続いて3都市目となりました。今回は何と言っても、世界の公用語である英語圏の都市と縁組みできたことにうれしく思っています。

歓迎会の折、マット・グロコット・サンカルロス市長がスピーチされました。「私はレスリングの選手だった。昔、国際試合で日本の選手と対戦し私は敗れました。その際、勝った日本の選手がバッジをプレゼントしてくれました。そのお返しとして、今回私が大村市長へバッジをプレゼントします」

と話され、ライオンズクラブのバッジを私に手渡してくれました。

サンカルロス市は人口2万8千人の高級住宅地で、きれいな街並みがあり、治安も良い街です。中学・高校生がホームステイするには適地だといえるでしょう。これがきっかけで、大村市内の中学3年生の女生徒と高校1年生の男生生徒の2人が、8月1日から2週間ホームステイできることになりました。

今後も大村、いや日本を背負ってくれる大村の若者に外国を見てもらいたいし、さらには英語力を向上させるきっかけにもなってもらいたいと考えています。

サンカルロスの空が、いつも青く澄んでいるように、澄んだ瞳をしている大村の若者が世界で活躍してくれることを信じて、サンカルロス市との交流事業に取り組んでいきます。



サンフランシスコ日本総領事館を訪問し、猪俣総領事とお会いしました。

国際交流

大村市は、姉妹都市であるポルトガルのシントラ市、友好都市である中国上海市閔行区と、大村市国際交流協会を中心として交流を深めています。中高生の交換交流や、市民交流が主で、異国の文化に触れ、人々と接することは人材育成や国際化の推進に役立っています。

今回、3か国目となる米国サンカルロス市との姉妹都市提携で、ホームステイや語学研修など、更なる国際交流に期待が寄せられています。

市制施行70周年記念 天正遣欧少年使節の 足跡を辿るツアー

天正遣欧少年使節が足跡を残したイタリア、スペイン、ポルトガル(シントラ市を含む)への、市長を団長とした訪問団を派遣します。その般訪問団を募集します。

期間 10月3日(水)～12日(金)

申込期限 9月3日(月)

※詳しくは、市のホームページや担当課、各住民センターで配布するチラシをご覧ください。

■企画調整課(内線215)



ベッドタウンとして飛躍的に発展

しゃんはい みんこうく

上海市閔行区

MINHANG [中華人民共和国]



昭和62年9月に友好都市提携。昭和54年に長崎上海定期航空路線が開設され、旧上海県と農業交流が始まり、友好交流の協議書を取り交わしました。平成5年には、上海県が上海市閔行区に編入されたため、改めて締結を行いました。温暖な気候の上海市閔行区は、空港、港灣、地下鉄、高速道路などの交通の要衝で、上海市のベッドタウンです。公式訪問団の相互派遣や中高生の派遣事業などの交流を行なっています。



これから未来へ羽ばたく交流を

サンカルロス市

SAN CARLOS [米国カリフォルニア州]



7月に海外との3番目となる姉妹都市を提携。サンカルロス市は、サンフランシスコ国際空港まで約18km、サンフランシスコ市内まで約40kmで、近隣には世界的に有名なスタンフォード大学やカリフォルニア大学があるなど、恵まれた環境にあります。面積は大村市の8分の1程度で、人口は約2万9千人。閑静な住宅街を主としたコンパクトシティという印象で、いたるところに緑の木々が見られる美しいまちです。



天正遣欧少年使節が立ち寄った地

シントラ市

SINTRA [ポルトガル共和国]



平成9年8月に姉妹都市提携。天正遣欧少年使節がシントラ市を訪問し、当時のポルトガルの最高権力者と謁見した史実に基づき、少年たちが立ち寄った国立シントラ宮殿で姉妹都市提携の調印を行いました。シントラ市は、首都リスボンに隣接する王室の避暑地として栄えた観光地で、世界遺産にも認定されています。公式訪問団の相互派遣や、高校生のホームステイ派遣・受け入れなどの交流を行なっています。



国内交流

秋田県仙北市、兵庫県伊丹市と、歴史的背景をもとに、姉妹都市を提携し、30数年間交流を続けています。姉妹都市親善協会では、相互のイベント参加交流や物産展の開催など、教育、文化、産業、経済交流を積極的に推進しています。

これまで培ってきた絆を未来につなげるために、学生への啓発活動や機関紙の創刊など、これまで以上に友好親善を深めていきます。

今年も交流を深めた
おおむら夏越まつり

大村市からは毎年、5月に開催される「いたみ緑化フェア」に参加し、伊丹市からは「おおむら夏越まつり」にお越しいただき交流を深めています。

今年も伊丹市訪問団17人が訪れ、伊丹市の総踊り「WASSHOI いたみ」を披露。夏越総踊りにも参加していただき、楽しく交流を深めました。



豊かな歴史が育んだ産業都市

いたみ 伊丹市

[兵庫県]



昭和55年4月姉妹都市提携。歴史的背景や空港を有する都市として、地域社会に共通点が多いことから姉妹都市の提携を結びました。

伊丹市は、兵庫県南東部に位置し、古来から交通の要衝として栄えた歴史豊かな都市です。酒造業などの伝統産業に加え、大阪国際空港を生かしてハイテク産業も誘致し、産業都市として発展を続けています。大村市とは、毎年、イベントなどにお互い参加し交流を深めています。



兵庫県伊丹市

↑調印式の様子(昭和55年5月1日号広報)



風情漂う「みちのくの小京都」

せんぼく 仙北市

[秋田県・旧角館町]



昭和54年7月、旧角館町と姉妹都市を提携。合併により発足した仙北市とも引き続き提携しました。1868年の戊辰の役で佐竹藩に援軍を求められた大村藩士が、角館を守り抜いたという歴史的背景に基づき、姉妹都市提携に結びつきました。

仙北市は、日本一の水深を誇る「田沢湖」がある自然と歴史豊かな町です。「みちのくの小京都」とも例えられ、名物のしだれ桜が咲き誇る4月にはたくさんの観光客でにぎわいます。



秋田県仙北市

↑調印式の様子(昭和54年8月1日号広報)



市制施行70周年記念 仙北市内の大村ゆかりの地を巡るツアー

仙北市の大村ゆかりの地や、紅葉の名所を巡るツアーの参加者を募集します。

期間 11月2日(金)～4日(日)

訪問先 秋田県仙北市(濱田謹吾少年銅像、角館武家屋敷、田沢湖、抱返り溪谷など)、岩手県(つなぎ温泉、中尊寺金色堂)

費用 約84,000円(1人あたり)

※4人同室の場合の料金です。部屋割を希望する人は料金が高くなります。

募集人員 40人(多数の場合は抽選)

申込方法 はがきに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号・4人同室の可否を記入のうえ、お申し込みください。



申込先 856-8686(住所不要)
大村市姉妹都市親善協会事務局
申込期限 9月21日(金)
■大村市姉妹都市親善協会(内線241)